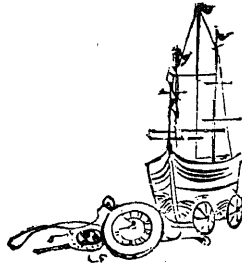


と多くなるのであります、且つ此の法を用ひま
 して出るところの乳は子供の爲めに宜しくありまし
 て大に其の健康を助けます、



記憶に關すること

松本孝次郎



記憶といふことは一言すれば簡單なれど精密に
 言ふことは難いことである。普通心理學では記憶
 の三階段といふことをいふ。これは即ち、把住
 復起、再認である。把住は一度経験したことを思
 ひ出すまで心に留めて置くことで、復起といふの
 は覺えた事を思ひ出す事、再認といふのは思ひ出
 した事は一度自分が経験した事であると認むる
 ことである。

記憶に於て復起と再認と何れか重いかといふこ

とは考を要することである。即ち以前経験した者
をすつかり思ひ出すのでなければ記憶といふこと
が出来ぬか。又以前経験した者とは少し異つて居
ても之は確に自分か記憶した事であるといふこと
を認めさへすれば記憶といふべきであるかといふ
ことは六ヶ敷ことである。しかし先づ今日では再
認があれば記憶といつて宜しいといふことになつ
て居る。しかし實際再認しても誤りかわれば正し
い記憶ではなし。

幼児の記憶は大抵元の通り確に復起することは
難く幾分か異つて居る。又再認といふ點に於ても
誤かある。即ち自分か経験したことを確に再認す
ることか出来ぬ場合がある。而して幼児をして能
く記憶せしむるには十分其体を養はなければなら
ぬ記憶の教育法は大部分は体育にまたなければな

らぬ。要するに身体を壯健にすることは記憶の環
備的教育でゐる。故に其目的を達するには適當な
る方法及品物によつて營養を十分にすることか必
要である。而して健全なる消化作用を起させ、血
液の循環をよくせしむるのである。學校に於ては
生徒の食事の前後の舉動に注意しなければなら
ぬ。一体食慾といふものは仕事をやめて直には起
らぬ者である。故に十二時迄一生懸命に仕事を續
つけて居てさて十二時になつたからといつて食事
に就ても決して眞の食慾は起らぬ、故に食事の前
は少し余裕の時を設けて置く必要がある。而して
食事の間は勿論談笑して楽しく緩ゆるくと咀嚼し
て食させなければならぬ。さて食事後の舉動に付
きては如何に注意したらよいかといふに成べく精
神を活かさぬ様にしなければならぬ。又幼児が初

めて入園すると以前家庭で常に暖かい晝飯を食して居たのに引かへて冷めたい辨當の飯を食すことであるから大に消化器を害し易いのである。其上入園の初めは幼児不相當に精神を活かすことか多いから注意深い兒程疲勞が甚しく其結果身体に害を受くることも少くない。故に幼稚園でも家庭でも大にこの點に注意しなければならぬ。

右述へた豫備的教育に於ては成べく戶外運動を奨勵し、尙度々の休息を與へることが必要である。要するに一つの勞働をなす内にも疲勞の極度に達するまで勞働を續けさせないで甚だ疲勞せざる内に休息をさせ且つ少しづつ度々の休息を取らせるのが得策である。これは神經の細胞といふものがあり丈夫の力を出した後には容易に恢復しないが、其迄に達せぬ時は恢復することが容易であるか

らである。又幼稚園に於て同一の事物に注意させることは十五分を超えてはならぬ。而して幼児の年齢が少なければ少ない程同一事物に注意させる時間を減しなければならぬ、尙一日中全体の分量は二時間乃至三時間が極度である。故になるべく幼児が自由に活動する時間を多くするのが宜しい。而して又同じ一日の中でも幼児の活動力といふものは時によつて異つて居る。若し之に注意しないで無暗に色々のものを課する時は幼児は非常に疲勞を覺えるのである。即ち普通午前十一時から十二時迄は幼児が尤も疲勞を感じる時である。故に此の時間には全く精神を勞せぬことをさせるのが宜しい。又八時から十時迄は精神の尤も活潑な時であるから規律を尙び迅速を要し精密なる注意を要するものは此時間にさせるのが適當であ

る。午後は二時から四時迄の時間がよい。又同じ時でも模型を示し圖書を示すときは幼児の活動力を永續させることか出来る、故に幼児に話をする時は實物、繪畫、などを示すのがよろしい、しかし専ら感動を惹き起す事を目的とする時は短い時間の間に強い注意力を集めて専ら話すことのみなすことが必要である。

以上は幼児の活動力と時間との關係に付きての原則であるが偶々此の例外がある。即ち夏の日に於ては幼児は朝の最初の時間から已に疲勞して居るものがある。それでかへつて一時間の後から元氣を増す様なこともある。これは家庭に於て先夜、夜を更かし睡眠時間か不足して居る結果によることが多い。故に記憶の悪い人に付きては能く其睡眠時間の如何を聞き正す必要がある。幼児

には十時間以上眠を取らせなければならぬ。ことに冬は永時間の眠りを要するものである。尙斯くの如き點から考へて日曜日は十分幼児を休息せしめなければならぬ。しかし刺激の多い社會及家庭では日曜日の効力を無にする場合が少くない。大に注意すべきことである。

以上は記憶の豫備的教育に付いて話したのであるが眞に記憶を増すには此の豫備的教育が尤も大切である。而して常にこの豫備的教育が行はれつゝあるかを知るためには幼児の体量を計ることが必要である。即ち体量の如何は營養の盛なると細胞の活動力の盛なると否とを示すものである。

又精神の方からいへば、記憶をよくするには注意作用を盛にするとか必要である。若し注意力が盛でないために凡ての刺激をよく受ける事が出来

なかつたならば従つて把住は不完全となる。只把住が不完全となるばかりでなく多くの経験した者の關係を發見することか出來ぬ。故に豫備的教育の體育に注意すると同時に注意作用を強くする事に注意しなければならぬ。

以上二つの事に注意した上は同一の事柄を度々繰り返して経験せしむるが宜しい。凡て記憶は全く注入の過くるのはよろしくない。故に注入は度を過ぎぬ様にし、さて注入するには、よく順序を考へてすべきである。記憶には機械的記憶と論理的記憶とあるが、機械的記憶をさせる時は特に同じ事柄を度々経験させることが必要であり、論理的記憶に訴へる方は記憶の順序をよくする事が大切である。而して幼稚園時代には機械的のものが多い活き漸次年齢の増すに従つて概念的に論理的

になるのである。機械的記憶をさせる時には多くのものを一度にするのは不得策である。故に成べく短かく切つてさせるのが得策である。そうすれば幼児の勞力も省け又記憶に要する時間も少ないのである。又概括的論理的に記憶させる場合には記憶すべき主要なる部分と左程でない處とを能く區別して分類し、順序よく注入すべきである。

幼児の記憶の悪いといふ中には復起することの拙いのと、覚えこむことの拙さとの二種ある。後者は不注意の生徒や、生來精神の活動力の鈍い兒にあり勝のことである。これはこれを教へる方で忍耐力をもつてするより他に良法かない。而してこれには豫備的教育が甚だ必要である。又復起の出來ざるものに觀念連合の弱いからである。斯くの如きは一種の軽い精神の異状である。故にこ

れには材料を撰ぶばかりでなく、如何に連合すればよいかといふことを教ゆるが宜しい。凡て幼稚園時代の幼児は凡て機械的記憶の強いものであるが其記憶をよく注意して観察すれば幼児によつて視覚の記憶の強いものと、聴覚の記憶の強いものと、又筋覚の記憶の強いものとの三種がある。即ち朝飯の時の膳のことを思ひ出せば直に其上に排列せられてある色々の者を思ひ出すが如きは視覚記憶の強いもので、人の聲を聞いて直に其人を思ひ出すか如きは聴覚の記憶の強いのである。しかし幼児の記憶の普通は視覚記憶である。而して記憶せしむる時に或は實物を以てし或は音聲を以てするなどは各幼児の性質によるのが適當である。概して都會の兒は記憶することも早く忘却することも、また早いものである。之に反して田舎の兒

は記憶することは遅いが又これを忘るゝ事も遅い故に都會の兒には同一物を度々反復させることは必要である。其他筋覚記憶の強い兒は技藝家に適當である。此等各兒の特點欠點は影響する處が少くないから教育者はよく各兒の性質を知つて其短を補ひ其の長を助くる様にしなければならぬ。

我宿の

花見がてら来る人は

ちりにし後ぞ

戀しがるらん